

平成27年度 有老協サービス第三者評価結果

ホームID	ホーム名	法人名	評価日
2716	ヴィラノーヴァ大谷	(株)サンヴィラ	H28.1.4
有老協HPでの評価結果公表希望		有	
評価機関	特定非営利活動法人 あい・ライフサポートシステムズ		

評価結果

スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価
1.1.1	A	A	2.3.4	A	A	6.2.1	A	A
1.1.2	A	A	2.3.5	A	A	6.2.2	A	A
1.1.3	A	A	2.3.6	A	A	6.2.3	A	A
1.1.4	A	A	2.3.7	A	A	6.2.4	A	A
1.2.1	A	A	2.3.8	A	非	6.2.5	A	A
1.2.2	A	A	2.3.9	A	A	6.2.6	A	A
1.2.3	A	A	2.3.10	A	A	6.2.7	A	A
1.3.1	A	A	2.3.11	A	A	6.2.8	A	A
1.3.2	A	A	2.4.1	A	A	6.2.9	A	A
1.3.3	A	A	2.4.2	A	A	6.3.1	A	A
1.4.1	A	A	2.4.3	A	A	6.3.2	A	B
1.4.2	A	A	2.4.4	A	A	6.3.3	B	B
1.4.3	A	A	2.4.5	A	A	7.1.1	A	A
1.4.4	A	A	2.4.6	A	A	7.1.2	A	A
1.4.5	A	A	3.1.1	A	B	7.2.1	A	A
1.4.6	A	A	3.1.2	A	A	7.3.1	A	A
1.4.7	A	A	3.1.3	A	A	7.3.2	A	A
1.4.8	A	A	3.1.4	A	A	7.3.3	A	A
1.5.1	A	A	3.1.5	A	B	7.3.4	A	A
1.5.2	A	A	3.1.6	A	A	7.4.1	A	A
1.5.3	A	A	3.1.7	A	A	7.4.2	A	A
2.1.1	A	A	4.1.1	A	A	7.4.3	A	A
2.1.2	A	A	4.1.2	A	A	7.4.4	A	A
2.2.1	A	A	4.1.3	A	A	7.4.5	A	A
2.2.2	A	A	4.1.4	A	A	7.5.1	A	A
2.2.3	A	A	4.2.1	A	A	7.5.2	A	A
2.2.4	A	A	4.2.2	A	A	7.5.3	A	A
2.2.5	A	A	5.1.1	A	A	7.5.4	A	A
2.2.6	A	A	5.1.2	A	A	7.5.5	A	A
2.2.7	A	A	5.2.1	A	A	7.5.6	A	A
2.2.8	A	A	5.2.2	A	A	7.5.7	A	A
2.2.9	A	A	5.2.3	A	A	7.6.1	A	A
2.2.10	A	A	5.2.4	A	A	7.6.2	A	A
2.2.11	A	A	5.2.5	A	A	7.6.3	A	A
2.3.1	A	A	6.1.1	A	A			
2.3.2	A	A	6.1.2	A	A			
2.3.3	A	A	6.1.3	A	A			

評価機関の所見

1. 優れた取り組みと思われる点

スケール	所 見
1-4-1 1-4-3 1-4-4	<p>職員の系統的・計画的な育成並びに人事考課については、「マネジメントコース(管理職希望)」と、「エキスパートコース(現場のスペシャリスト希望)」の2系統に区分し制度化しています。また、それぞれのコースに求められる基本的資質を数項目に細分化し、備えるべき資質を明確にしています。さらにそれらを7等級化したマトリックス表を用い、自身が現在どのレベルにあり、昇給昇格をするためには、どのようなスキルや知識が必要なのか、法人理念の理解レベルやその具体的実践状況を測れるよう基準を明確にしています。更には、必要なスキルや業務の実践状況を3段階で評価する、「スキルアップ確認シート(職務・等級により項目数は異なるが少なくとも100項目以上)」を作成し、職員一人ひとりの技術の習熟度や考え方が測れるように仕組化しています。これらは自己評価と指導監督職による評価と職員へのフィードバックを年一回実施する事により、職員のモチベーション向上や、指導監督職員の指導の指針にもなっています。</p>
2-4-6	<p>近隣消防署の協力のもと、ホームの防災計画に基づき年一回の防災訓練を行っています。また消防署が実施する初期消火活動の訓練にも職員が参加し、消火器の使い方や消火のための基礎知識を学んでいます。これらに加えホーム独自の夜間想定での防災訓練を毎月実施し、入居者への説明や火災時の避難方法について徹底しています。緊急連絡網に加え、ホームと職員自宅までの距離の把握もしており、必要に応じて緊急の駆け付けにも短時間で対応できるよう、万が一への備えを行っています。</p>
6-2-3 6-2-5 6-2-6	<p>入居者個別にアセスメントを行い、生活状況や残存機能を把握し、より充実した生活が送れるようケアプランを作成しています。ケアプランの見直しは状態変化や認定更新時のもとより、短期目標の期間に合わせ、それまでの介護記録等を検証し、3ヵ月毎のモニタリングと、目標の達成度やニーズの充足度を測っています。また見直しの際には必ずサービス担当者会議を開催し、本人・家族参加のもと要望の確認やサービス内容の説明も行っています。このサービス担当者会議には、介護・看護・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の他、協力医の参加もあり、医療面やケアに関する助言もいただいています。必要に応じた見直しの検討に加え、3ヵ月毎にモニタリング及びサービス担当者会議を開催する事により、利用者とのより深いかかわりの動機付けとなり、声かけや観察などが一層丁寧になるなど、より良いケアへ繋がっています。</p>
7-4-1	<p>おむつの利用は、ターミナルケアに入るまでは不可とし、日中及び夜間帯もリハビリパンツを利用いただき、個別に排泄誘導を行う取り組みを行っています。個人毎に排泄チェックを行い、時間や量を把握すると共に、個人毎に異なる排泄サインも把握し、さりげない声かけやトイレ誘導を行っています。これらは支援経過記録により職員間で共有され、一人ひとりの意志を尊重した排泄ケアと自立への支援となっています。</p>